



報 告 書

大工研報第 1992 号

依 頼 者	所 在 地 または住所	大阪市北区大淀中1-1-30
	企 業 名 または氏名	積水アクアシステム 株式会社 様

研 究 題 目	プライマーに関する耐食性の研究
---------	-----------------

平成 20 年 10 月 22 日付 第 205322 号で依頼のあった件について
研究した結果を次のとおり報告します。

1. 研究目的

どぶづけ亜鉛メッキ鋼板+CCP+ハイパネル (名称は依頼者の申し出による) 1 個

2. 研究方法

JIS Z 2371 塩水噴霧試験方法を参考にしたキャス試験, 連続噴霧264時間を行った。

装置: スガ試験機製CASSER-ISO-3。

試験用塩溶液: 塩化ナトリウム50g/L, 塩化銅(II)二水和物0.26g/L, 酢酸により溶液の
pHを3.0~3.1に調整。

試験槽設定温度: 50℃。

評価方法: 試験終了後, 試験片を常温の水で洗浄し1時間乾燥させた後, 目視外観観察を
行った。

3. 研究結果

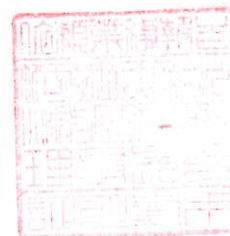
試験時間	平面部分	クロスカット部
120時間 経過後	塗膜表面に腐食生成物は認め られなかった。	腐食生成物は認められなかった。 周辺部の塗膜のふくれは認められ なかった。
264時間 経過後	塗膜表面に腐食生成物は認め られなかった。	腐食生成物は認められなかった。 周辺部の塗膜のふくれは認められ なかった。

—以 上—

平成 21 年 3 月 24 日

地方独立行政法人大阪市立工業研究所

理 事 長 島 田 裕 司





報告書

大工研報第 1993号

依頼者	所在地 または住所	大阪市北区大淀中1-1-30
	企業名 または氏名	積水アクアシステム 株式会社 様

研究題目	プライマーに関する耐食性の研究
------	-----------------

平成 20 年 10 月 22 日付 第 205322 号で依頼のあった件について
研究した結果を次のとおり報告します。

1. 研究目的

錆び鉄+CCP（名称は依頼者の申し出による） 1個

2. 研究方法

JIS Z 2371 塩水噴霧試験方法を参考にしたキャス試験，連続噴霧264時間を行った。

装置：スガ試験機製CASSER-ISO-3。

試験用塩溶液：塩化ナトリウム50g/L，塩化銅(II)二水和物0.26g/L，酢酸により溶液のpHを3.0～3.1に調整。

試験槽設定温度：50℃。

評価方法：試験終了後，試験片を常温の水で洗浄し1時間乾燥させた後，目視外観観察を行った。

3. 研究結果

試験時間	平面部分	クロスカット部
120時間 経過後	塗膜表面にわずかに赤褐色腐食生成物が認められた。	赤褐色腐食生成物が認められた。 周辺部の塗膜のふくれは認められなかった。
264時間 経過後	塗膜表面にわずかに赤褐色腐食生成物が認められた。	赤褐色腐食生成物が認められた。 周辺部にわずかに塗膜のふくれが認められた。

—以 上—

平成 21 年 3 月 24 日

地方独立行政法人大阪市立工業研究所

理事長 島 田 裕 司





報告書

大工研報第 1994号

依頼者	所在地 または住所	大阪市北区大淀中1-1-30
	企業名 または氏名	積水アクアシステム 株式会社 様
研究題目	プライマーに関する耐食性の研究	

平成 20 年 10 月 22 日付 第 205322 号で依頼のあった件について
研究した結果を次のとおり報告します。

1. 研究目的

磨き鉄+CCP（名称は依頼者の申し出による） 1個

2. 研究方法

JIS Z 2371 塩水噴霧試験方法を参考にしたキャス試験，連続噴霧264時間を行った。

装置：スガ試験機製CASSER-ISO-3。

試験用塩溶液：塩化ナトリウム50g/L，塩化銅(II)二水和物0.26g/L，酢酸により溶液のpHを3.0～3.1に調整。

試験槽設定温度：50℃。

評価方法：試験終了後，試験片を常温の水で洗浄し1時間乾燥させた後，目視外観観察を行った。

3. 研究結果

試験時間	平面部分	クロスカット部
120時間 経過後	塗膜表面に赤褐色および黒色 腐食生成物が認められた。	赤褐色腐食生成物が認められた。 周辺部の塗膜のふくれは認められ なかった。
264時間 経過後	塗膜表面に赤褐色および黒色 腐食生成物が認められた。	赤褐色腐食生成物が認められた。 周辺部にわずかに塗膜のふくれが 認められた。

—以 上—

平成 21 年 3 月 24 日

地方独立行政法人大阪市立工業研究所

理事長 島 田 裕 司





報告書

大工研報第 1099号

依頼者	所在地 または住所	大阪市北区大淀中1-1-30
	企業名 または氏名	積水アクアシステム 株式会社 様
研究題目	プライマーに関する耐食性の研究	

平成 20 年 9 月 22 日付 第 205277 号で依頼のあった件について
研究した結果を次のとおり報告します。

1. 提出試料

磨き鋼板+CCP117+ハイパネルコートO421 (名称は依頼者の申し出による) 1個

2. 試験方法

JIS Z 2371 塩水噴霧試験方法を参考にしたキャス試験, 連続噴霧264時間を行った。
装置: スガ試験機製CASSER-ISO-3。

試験用塩溶液: 塩化ナトリウム50g/L, 塩化銅(II)二水和物0.26g/L, 酢酸により溶液の
pHを3.0~3.1に調整。

試験槽設定温度: 50℃。

評価方法: 試験終了後, 試験片を常温の水で洗浄し1時間乾燥させた後, 目視外観観察を
行った。

3. 試験結果

試験時間	平面部分	クロスカット部
120時間 経過後	塗膜表面にざらつきが認められた。 塗膜表面に腐食生成物は認められなかった。	赤褐色腐食生成物が認められた。 周辺部の塗膜のふくれは認められなかった。
264時間 経過後	塗膜表面にざらつきが認められた。 塗膜表面に腐食生成物は認められなかった。	赤褐色腐食生成物が認められた。 周辺部にわずかに塗膜のふくれが認められた。

—以 上—

平成 20 年 10 月 14 日

地方独立行政法人大阪市立工業研究所

理事長 島田裕司





報告書

大工研報第 1098号

依頼者	所在地 または住所	大阪市北区大淀中1-1-30
	企業名 または氏名	積水アクアシステム 株式会社 様
研究題目	プライマーに関する耐食性の研究	

平成 20 年 9 月 22 日付 第 205277 号で依頼のあった件について
研究した結果を次のとおり報告します。

1. 提出試料

SUS444+O710+ハイパネルコートO421（名称は依頼者の申し出による） 1個

2. 試験方法

JIS Z 2371 塩水噴霧試験方法を参考にしたキャス試験，連続噴霧264時間を行った。

装置：スガ試験機製CASSER-ISO-3。

試験用塩溶液：塩化ナトリウム50g/L，塩化銅(II)二水和物0.26g/L，酢酸により溶液のpHを3.0～3.1に調整。

試験槽設定温度：50℃。

評価方法：試験終了後，試験片を常温の水で洗浄し1時間乾燥させた後，目視外観観察を行った。

3. 試験結果

試験時間	平面部分	クロスカット部
120時間 経過後	塗膜表面にざらつきが認められた。 塗膜表面に腐食生成物は認められなかった。	腐食生成物は認められなかった。 周辺部の塗膜のふくれは認められなかった。
264時間 経過後	塗膜表面にざらつきが認められた。 塗膜表面に腐食生成物は認められなかった。	腐食生成物は認められなかった。 周辺部の塗膜のふくれは認められなかった。

—以 上—

平成 20 年 10 月 14 日

地方独立行政法人大阪市立工業研究所

理事長 島田裕司





報 告 書

大工研報第 1097号

依 頼 者	所 在 地 または住所	大阪市北区大淀中1-1-30
	企 業 名 または氏名	積水アクアシステム 株式会社 様

研 究 題 目	プライマーに関する耐食性の研究
---------	-----------------

平成 20 年 9 月 22 日付 第 205277 号で依頼のあった件について
研究した結果を次のとおり報告します。

1. 提出試料

SUS304+O710+ハイパネルコートO421 (名称は依頼者の申し出による) 1個

2. 試験方法

JIS Z 2371 塩水噴霧試験方法を参考にしたキャス試験, 連続噴霧264時間を行った。

装置: スガ試験機製CASSER-ISO-3。

試験用塩溶液: 塩化ナトリウム50g/L, 塩化銅(II)二水和物0.26g/L, 酢酸により溶液のpHを3.0~3.1に調整。

試験槽設定温度: 50℃。

評価方法: 試験終了後, 試験片を常温の水で洗浄し1時間乾燥させた後, 目視外観観察を行った。

3. 試験結果

試験時間	平面部分	クロスカット部
120時間 経過後	塗膜表面に腐食生成物は認められなかった。	腐食生成物は認められなかった。 周辺部の塗膜のふくれは認められなかった。
264時間 経過後	塗膜表面にざらつきが認められた。 塗膜表面に腐食生成物は認められなかった。	腐食生成物は認められなかった。 周辺部の塗膜のふくれは認められなかった。

—以 上—

平成 20年 10月 14日

地方独立行政法人大阪市立工業研究所

理 事 長 島 田 裕 司



報 告 書

大工研報第 888 号

依 頼 者	所 在 地 または住所	大阪市北区大淀中1-1-30
	企 業 名 または氏名	積水アクアシステム 株式会社 様
研究 題 目	プライマーに関する耐食性の研究	

平成 20 年 8 月 26 日付 第 205245 号で依頼のあった件について
研究した結果を次のとおり報告します。

1. 提出試料

CCP117 (名称は依頼者の申し出による) 1 個

2. 試験方法

JIS Z 2371 塩水噴霧試験方法を参考にしたキャス試験, 連続噴霧216時間を行った。

装置: スガ試験機製CASSER-ISO-3。

試験用塩溶液: 塩化ナトリウム50g/L, 塩化銅(II)二水和物0.26g/L, 酢酸により溶液の
pHを3.0~3.1に調整。

試験槽設定温度: 50℃。

評価方法: 試験終了後, 試験片を常温の水で洗浄し1時間乾燥させた後, 目視外観観察を
行った。

3. 試験結果

試験時間	平面部分	クロスカット部
24時間経過後	塗膜表面にざらつきが認められた。 塗膜の光沢の低下が認められた。	赤褐色腐食生成物が認められた。 周辺部の塗膜の剥離は認められな かった。
48時間経過後	塗膜表面にざらつきが認められた。 塗膜の光沢の低下が認められた。	赤褐色腐食生成物が認められた。 周辺部の塗膜の剥離は認められな かった。
120時間経過後	塗膜表面にざらつきが認められた。 塗膜表面にわずかに赤褐色腐食生成 物が認められた。	赤褐色腐食生成物が認められた。 周辺部の塗膜の剥離は認められな かった。
216時間経過後	塗膜表面にざらつきが認められた。 塗膜表面にわずかに赤褐色腐食生成 物が認められた。	赤褐色腐食生成物が認められた。 周辺部の塗膜の剥離は認められな かった。

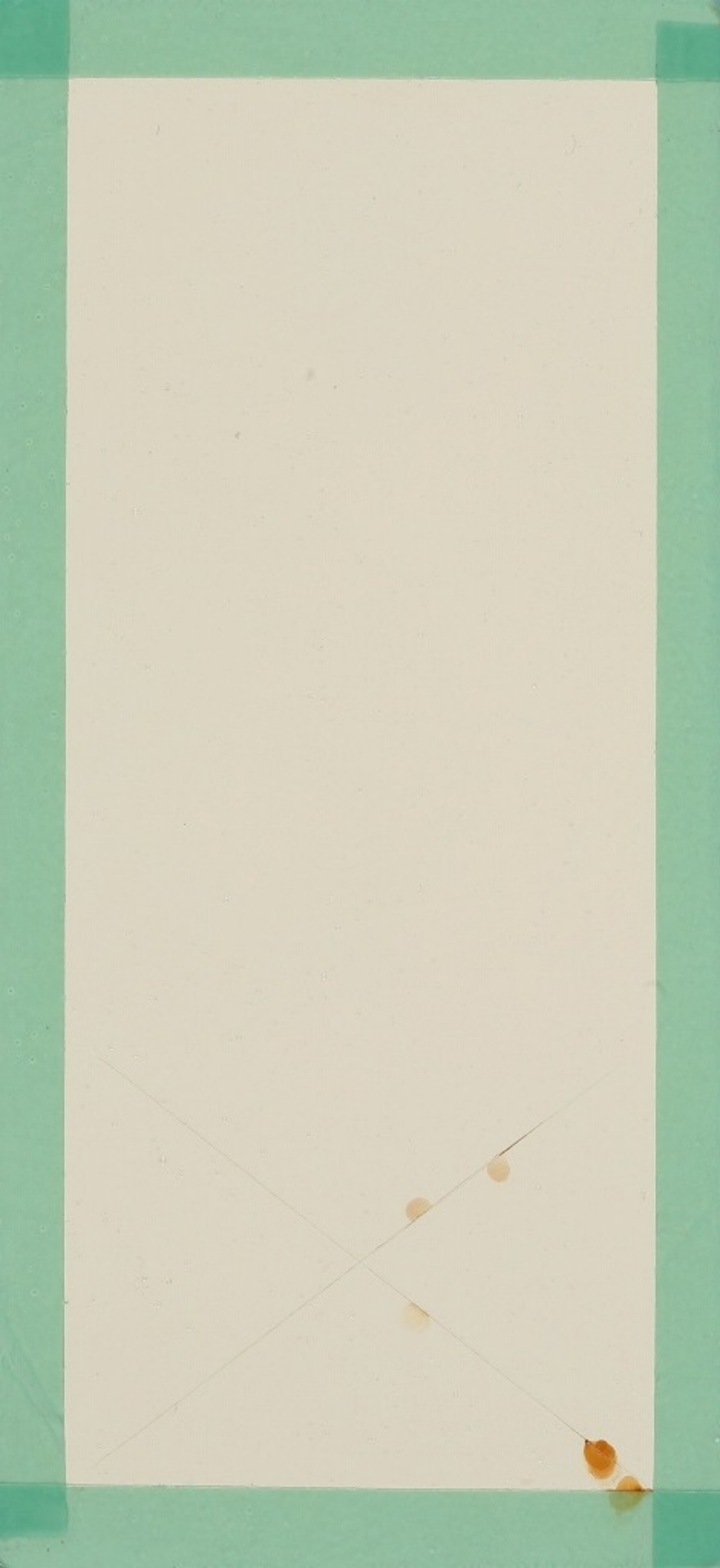
— 以 上 —

平成 20 年 9 月 8 日

地方独立行政法人大阪市立工業研究所

理 事 長 島 田 裕 司





1141

